

【クレーム情報】

漂白剤を主成分にした洗剤による変色

漂白剤を主成分にした洗剤による変色は、昔からあるありふれた事故ですが、昨年末に流行したノロウイルスの感染対策で、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が推奨されたことから、脱色などのトラブルが増えることを懸念する声も聞かれます。今回は、漂白剤を主成分にした洗剤による事故の典型例を紹介し、その対応策を考えます。

事故の状態

ジャケットの前身ごろと後身ごろのすそに液体が飛び散ったような状態で、脱色が生じている。クリーニングをした後にお客様から脱色していることを指摘されたとのこと。

原因

次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした洗剤が付着したために脱色したものの。

脱色部に残留している薬品を検出した。主成分である次亜塩素酸ナトリウムを実際に付着させて脱色を再現することで原因物質を確認できる。ただし、事故品が水洗いされている場合は、付着している薬品が洗い流されるために検出できない。また、誰が、いつ洗剤を付着させたのか、クレーム解決のポイントとなるが、的確に判断する方法はない。

漂白剤を主成分にした洗剤

漂白剤を主成分にした洗剤には、

次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした液状のものや過炭酸ナトリウムを主成分にした粉末状のものがあり、用途別に次のような各種商品が販売されている。

- ・ 洗たく用漂白剤
- ・ 台所用品用漂白剤
- ・ 洗たく槽洗剤
- ・ 台所、浴室、洗面所などの配水管洗剤
- ・ カビを除去するための洗剤
- ・ トイレ清浄用洗剤

事故の防止対策

防止対策は洗剤を付着させないこと。また、クリーニング工程による付着ではないことを証明するために作業場内には漂白剤を主成分とする洗剤は持ち込まないなどの対策が必要。

また、消費者には、身近にある各種洗剤が事故の原因になることや洗剤が付着した時はすぐに水で洗い流すことなどをアドバイスすることも有効な対策。

洗剤の除去方法

洗剤は、水によるシミ抜きまたはウェットクリーニングで除去する。付着している場所が特定できればシミ抜きで対応できるが、場所が特定できなければウェットクリーニングで全体を処理する。

シミ抜きやウェットクリーニングを行う時は、生じる可能性のある様々な変化について顧客の了解を得ることが必要。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」には、2月1日現在、4130件の事故情報が登録されている。洗剤による色の変化は、検索項目にある「事故名」の中の「変退色」に分類されている。品名や素材を絞り込んで検索をかけ、原因分類が薬剤となっている事故の大半は、漂白剤を主成分にした洗剤によるものと考えてよい。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03(5362)7201



右ポケット付近に液体が飛んだような跡で変色している

- 品名…ジャケット
- 素材…テンセル 65%、麻 15%、カポック 12%、綿 8%
- 取扱い絵表示



■処理方法…石油系ドライクリーニング、タンブラー乾燥。
※カポック…パンヤ科のカポックの実から採れる植物性繊維
(指定外繊維)。